

死亡労働災害の撲滅に向けて、 茨城労働局長が建設工事現場を安全パトロール！

～ 重篤な災害につながりやすい「墜落・転落災害」等へ向けて
労働災害防止対策の徹底を呼び掛け ～

令和元年7月1日



パトロール前に安全訓話をする福元労働局長

茨城労働局（局長 福元俊成）は、全国安全週間期間中の7月1日に、土浦労働基準監督署と合同による、安全パトロールを実施しました。

茨城県内の労働災害は、4月末現在で死亡者数が3人で、近年で最も少ない状況でしたが、5月以降、建設・製造現場等で、機械にはさまれる等により、立て続けに6人の死亡災害（うち2人が外国人）が発生し、今年に入ってから既に9人の尊い命が失われています。

業種全体で労働災害が減少している中、建築工事業で重篤な災害につながりやすい「墜落・転落災害」が増加していることから、建設工事現場の安全パトロールを実施し、労働災害防止対策の徹底を呼び掛けました。

茨城労働局の福元局長をはじめ、土浦労働基準監督署の谷署長を含む6名は、(株)大林組東京本店がつくば市稲岡で施工する物流センターの増築工事現場の安全パトロールを実施し、作業員の「転落を防ぐ安全ネット」の取付状況や「熱中症対策」で用いる電光掲示板、休憩所の整備などの対策が講じられていることを確認しました。

最後に福元局長は、「5月以降、死亡事故が相次いでいるので、労使が一体となって現場ごとに安全管理を徹底してほしい。これから暑くなるので熱中症の予防にも注意してほしい。」と話しました。

このような状況を踏まえて、茨城労働局では各労働基準監督署と連携して、労働災害



大和田所長（左側）から説明を受ける福元労働局長（右側）

が増加傾向にある業種に対し、職場の安全衛生活動の総点検等を含めた労働災害防止対策の徹底に向けた周知啓発、指導を実施していきます。